

気候変動問題に関する近道は 今も存在しない



米シラキュース大学
地理環境学教授

マット・T・フーバー

ここに紹介する論文は、米国のグリーンニューディールに関してシラキュース大学のマット・T・フーバー教授がCATALYST誌に寄稿した論文の日本語訳である。翻訳は全労連国際局で行った。

ドナルド・トランプの大統領選での敗北は、気候活動家にとって良いニュースだった。トランプは大統領就任初日に、ホワイトハウスの気候政策ウェブページを削除し、彼自身の「アメリカファースト・エネルギー計画」に置き換えた。就任5日目には、キーストンXLパイプライン建設を承認する大統領令に署名し、気候変動と先住民が取り組むパイプライン建設反対運動のさやかな前進を押し返した。トランプは「米国のエネルギー支配」を宣言する演説で、米国には「クリーンかつ素晴らしい石炭が250年以上¹」存在すると興奮気味に述べた。化石燃料業界出身者を大統領顧問に任命し、異常な広さの公有地を売却、貸与した。彼は過去に例のない規制緩和を行い、産業界が守るべき100以上の環境保護規制を無効にした。

トランプ時代を懐かしく思う左派はいないだろ

うが、私たちはトランプ敗北の意味を理解する必要がある。トランプの攻撃的な環境アジェンダ（慎ましく科学を信じ、積極的に環境保護を進めることへの攻撃）は、環境保護活動家を完全に失望させた。しかし一方で、「ポスト真実」すなわちトランプ大統領の存在によって、環境保護のたたかいが、その核心において知識と科学をめぐる闘争だと気付かされた。たとえば、職業的なりべラル活動家は「科学への行進」を組織したが、あからさまに政治への関与を否定した。彼らは、自分たちの行進は「政治的抗議ではなく」、ましてや「資源の物質的管理をめぐる闘争ではない」と主張した²。それは、私たちが「否定論者の親玉＝トランプ」を追放し、「科学を信じる」民主党員を大統領職に選出さえすれば、気候、環境危機の解決に必要な行動を開始できることを意味した。ジョー・バイデンの大統領選出は、こうした希望を高めている。

しかし私たちは、以前にも同じような光景を目撃している。攻撃的な共和党による環境破壊は、見識ある民主党による環境破壊よりもわずかに悪いに過ぎない。化石燃料を推進したジョージ・W・ブッシュ政権の8年間ののち、バラク・オバ

マ大統領は勝利演説でこう述べた。「今日はまさに海面上昇が抑えられ、地球が癒され始める日だ³」。しかし米国のエネルギー支配は、トランプではなくオバマ時代の産物だ。遠慮会釈なく言えば、化石燃料の採掘は、トランプよりもオバマの下ではるかに拡大した⁴。オバマという気候信者は、2018年の公開イベントで、「とつぜん米国は世界最大の産油国となり…それは私の時代のことで、人々は…感謝を口にしている⁵」と述べ、自慢さえしていた。

私たちは、共和党の大統領を排除することで新たな希望の地平線が現れるという、一種の環境政策におけるハムスターの回し車状態に入りつつある。現在、2008年のときのように、新たな期限を切った目標（2035年および2050年）が議論されているが、この期限まで一定時間があるため大胆な措置を避け、また科学の信頼性を問える程度に近い目標でもある。しかし、この堂々巡りはつねに強力な産業界と衝突するため、明らかに必要な対策を遅延させる。

2008年当時と2020年との政治的可能性には、いくつかの相違点がある。第一に、異常事態が起きると真面目な人間ならだれも否定できないほど、気候危機は深刻化している。2019年から翌年にかけてオーストラリアで起きた森林火災＝「暗黒の夏」に続いて、北米の夏は煙で空が黒く覆われ、また超大型ハリケーンに襲われた。私がこれを書いているときにも、投資家の圧力によって、石油／ガス会社でさえ、2050年までにCO₂排出量実質ゼロにする計画を発表するのか揺れている⁶。こうした影響は、気温が産業革命前の水準よりも約1.2度上昇したことによる。専門家は、気温が2030年までに1.5度、さらに2034～52年の間には2度上昇する恐れがあるとみている⁷。率直に言って気候システムにとって、大統領が科学を信じるかどうかなどどうでもよい。私たちは、全体的な産業・エネルギーシステムの大転換を開

始する最後のチャンスに近づいているのだ。

第二に、その達成に必要な大衆の支持を得られる可能性のある政策プログラム＝グリーンニューディール（GND）が存在している。GNDは、公共投資、雇用保障、および医療・住宅・生活賃金に対する経済的権利にもとづく単純明快な労働者階級プログラムであるとともに、不平等と気候変動を解決することを目指している。右派は環境保護政策への反対の世論を高めるため、一貫して階級的なアピールを行ってきたが、左派もついに階級にもとづく環境保護政策を立案したのだ。

しかし、GNDをめぐるさまざまな議論の前提は、左翼が権力を掌握することだった。この見通しは、2020年の大統領選の結果とともに消えた。いま、新自由主義的なバイデン政権と、上下両院において民主党が共和党を議席でわずかに上回っている事実を私たちは目の当たりにしている。私たちに必要なのは、可能なことと不可能なことを理解し、階級勢力のバランスに関する冷静な分析をすることだ。そして、より急進的なGND推進連合を、妥協と中途半端で未来のない懐柔策に取り込もうとする、資本に忠実なバイデンと民主党による現在進行中の危険を認識する必要がある。バーニー・サンダースの大統領選出馬の興奮が過ぎさり、私たちに残された唯一の選択は、職場および職場を越えて労働者階級の組織強化に専念することだ。それでこそ強固な政治的コミットメントと力を構築することができる。

今なお、人類がこれまでに直面した最大の危機について、全くもって怠慢であることを理解する必要がある。



オバマの化石資本との賢明な同盟：2008～2016年

2008年当時の気候政策の機運の意味を忘れるこ

とは簡単だ。アル・ゴアの2006年のドキュメンタリー「不都合な真実」と、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）による2007年の第4次評価報告書は、騒々しい切迫感を生み出した。地球はいっそう憂慮すべき兆候を示しており、2007年、北極の海氷面積は史上最低を記録⁸した。現在のサンライズ運動のように、大衆的抗議を組織する新たな活動家グループ（350.org）が存在した。

2つの世界史的な出来事が起きた2008年秋にかけて、こうした機運は着実に高まっていった。2つの出来事とは、1930年代以来最大の金融危機と、規定外の候補であったバラク・オバマの大統領当選である。多くの人々が指摘するように、GNDという構想の起源は、この時代に求めることができる。「タイム」誌は2008年11月24日付号で、フランクリン・ルーズベルトに重ねたオバマを特集した（見出しは「ニューディール」）。実際、ケイト・アロノフと共著者が「えせグリーンニューディール」と呼んだものは、願望のうちにとどまった⁹。しかし、左派の多くがすでにより徹底的な政策を求めていたことを忘れてはならない。2008年10月、「ネーション」誌はヴァン・ジョーンズ執筆の記事を掲載したが、彼の言う「環境エリート主義」を拒否し、「環境ポピュリズム」を支持した。ジョーンズは、労働組合、環境保護論者、学生、宗教団体、社会正義運動家を含む「新しい世紀のためのニューディール連合の構築」を呼びかけた¹⁰。

2009年1月まで経済は急激に落ち込み、民主党が行政および立法部門を握っている下で、変革のためにこれ以上望ましい条件は想像できなかった。しかし、オバマの大統領就任前でさえ、経済と気候を危機から救う左翼的プログラムに対するオバマのコミットメントは、すでに疑わしかった。オバマ政権の閣僚は、銀行のシティグループ幹部から直接助言を受けていた¹¹。共和党の支持を得る目的で、オバマは彼の景気刺激策の野心的

目標を制限するよう努めた。景気刺激策は再生可能エネルギー向けの相当額を含んではいたが、オバマの任期中の8年間で、排出量は基本的に横ばいのままだった¹²。

2007年にマサチューセッツ州と米国環境保護庁間の訴訟の判決で、連邦最高裁は温室効果ガスは大気浄化法を通じて規制されるべきとし、オバマ政権に対し、問題に対処するすべての行政権限を与えた。オバマは別の道を選び、代わりに共和党と産業界に妥協した新たな制度を提案した。その結果が新自由主義的な自由市場政策、すなわち排出権取引と組み合わせた排出量抑制策である。シーダ・スコチボルが詳述したように、オバマは国民を動かす努力をせず、むしろスコチボルが「協調組合主義的交渉」と呼ぶ密室プロセスを生み出した。すなわち国家のリーダーと有力な利益団体との間のエリート交渉である¹³。このプロセスの核心には、米国気候行動パートナーシップ、環境防衛基金（EDF）のような大手環境保護団体と、キャタピラー社やデューク・エナジー社など汚染企業との間の同盟がある。この不可解な市場ベースの政策は、国民に熱意をまったく生み出さず、むしろ茶会運動（保守派のポピュリスト運動）を勇気づけたが、彼らはこの政策を「キャップ・アンド・タックス¹⁴」と見なしていた。

2010年に事態はいっそう悪化した。オバマは同年春、破綻する運命にある「キャップ・アンド・トレード」法案への支持を得るため、産業界の隠れ蓑^{みの}としての大規模海洋掘削計画を発表した。2010年4月2日、彼はこうそびいた。「現代の石油掘削装置は、概して油を流出させないことが明らかだ。技術的に非常に進化している¹⁵」。その18日後、米国史上最大の海洋油流出事故が発生した。さらに悪いことに、キャップ・アンド・トレード法案はかろうじて下院を通過したものの、上院で否決された。2010年の中間選挙でオバマが大敗を喫したのち、気候政策は「蚊帳の外」と見

なされるようになった¹⁶。

国際的な気候交渉でも、事態は少しも良くなかった。ここでも私たちは、オバマの選挙と2009年にコペンハーゲンで開催された国連会議——ホーペンハーゲンと呼ばれた〔希望=ホープをもじって〕——がいかに楽観論で覆われていたかを忘れていない。会議をハイジャックしたのは、気候信者のオバマだった。

コペンハーゲンでの重要な瞬間は、オバマ大統領がブラジル、南アフリカ、インド、中国のリーダーが非公式会合を開いていた部屋に押し入り、彼らと一緒に交渉中の文書を丸ごと棚上げし、独自協定を起草したときだった¹⁷。

彼らは、拘束力をもつ協定は「トップダウン」すぎるとし、より柔軟性のある「ボトムアップ」なアプローチ¹⁸を求めた。オバマは結局、国際協力を阻む主要な障害である米国の長年の役割を続けた。2015年のパリ協定は——歴史的なものではあるが——履行のための強制力をもたず、純粋に自発的な協定として、コペンハーゲンでのオバマのビジョンの具体化にすぎなかった。

2014年の中間選挙で再び大敗。オバマは就任初日に実施すべきだったことを実行し、自らのレガシーを守ろうとした。大気浄化法を用いて温室効果ガスを直接規制することである。オバマのグリーンパワー計画は野心的ではあったが、あまりに貧弱かつ遅すぎた。それは裁判に時間を取られたあげく、トランプ政権によって廃止された。結局、8年間の任期中にオバマが残した真のレガシーは、石油・天然ガス採掘場における爆発事故だ。原油生産量は2015年のピーク時には、2009年1月時点との比較でなんと89%も増加した¹⁹。キーストンXLパイプラインの建設中止など、いくつかの注目すべき勝利はあったが、任期満了までに、「行政機関の認可によって、化石燃料企

業は、ほとんど地球7周分に匹敵する長さのパイプラインを敷設した²⁰。

バイデン政権の発足にあたって、この経過は私たちが躊躇させる。オバマの化石燃料産業に対する融和的な服従を説明するものは何か。それを説明するには、買収や政治運動への献金といった、よくある話を越えて物事を見る必要がある。ケビン・ヤングらが指摘しているように、化石燃料産業へのオバマの服従は、むしろ「業界の構造的な力²¹」に根ざしている。ヤングらの研究は、いかにオバマが継続的な「資本（金融資本と化石燃料産業）のストライキ」の人質であったかを明らかにしている。環境分野における変革の行動は、「積極的規制は経済が依存するエネルギー部門への投資をやめるという形で、汚染を作り出すエネルギー企業の報復を誘発するという、エネルギー企業が繰り返し用いる脅迫²²」によって阻止された。現在、もう一つの重大な経済危機を経験しつつあるもつとで（そしてバイデンが化石燃料企業から多額の献金を実際に受け取っていた事実に照らして）、政治的陳情や口先の説得によって、バイデンを左へと押しやるのが可能だという考えは現実的でない²³。



グリーンニューディール運動の権力への挑戦と挫折： 2017年～2020年4月

テレビのいかれた有名人が2016年に大統領に当選したことは、逆説的に左派を勇気づけた。2016年のバーニー・サンダースの出馬の背後で左派の団結が深まり、トランプの勝利（ヒラリー・クリントンのまずい選挙運動による）は、「第三の道」としての新自由主義の吊鐘のように感じられた。新自由主義的穏健派に対する不満は、カーボンプライシングのような標準的な市場政策によって、左翼的な環境保護運動は意識的に自らを遠ざけ

た。2010年代のほとんどの期間、炭素税は常識とみられていた。炭素税はバーニー・サンダースの政策にも含まれていたし、「ジャコビン」は炭素税の政策的利点を訴える記事を掲載した²⁴。2017年までに、新自由主義的な市場改良という考えは、危機の規模を過小評価していることが明らかになった。アロノフが初期の論文「地球に第三の道はない」で述べているように、「地球の病気を治す特效薬としての炭素税の立案は、物理学が必要とする変化が実際にはどんなに大きいかを覆い隠すという、極めて深刻なリスクを冒している²⁵」。加えて、カーボンプライシングは、右派によって労働者に対する「コスト」として容易に立案される。まさにぴったりのタイミングだが、2018年にフランスで起きた「黄色いベスト」運動は、すでに無一文の労働者階級に炭素税を負わせることでは、気候アジェンダを実行することはできないということを証明した。

左派の間では、不安定な市場対策よりも、実際の物質的利益をもたらす政治的要求を確立する必要があるというコンセンサスが形成された。2018年初期、気候活動家らは、GNDは「気候変動のメディアケア・フォー・オール²⁶」になりうると主張した。その緊急性は、かの有名な2018年10月のIPCC報告によって強調された。同報告は、温暖化を1.5度以内に抑えるためには、「社会のあらゆる側面において、急速かつ広範囲にわたる前例のない変化」が必要になると示唆していた²⁷。

GNDは2018年11月中旬に爆発的な勢いで登場したが、当時アレクサンドリア・オカシオ＝コルテス下院議員は、民主党指導部のナンシー・ペロシの議会事務所を占拠するサンライズ運動と手を組んだ。このGNDを要求する座り込み（「みんなにグリーンジョブを」と書いたボードを掲げていた）は、メディアの注目を集め、気候政策の分野に興奮を呼び起こした。オカシオ＝コルテスが

下院議員に宣誓就任するわずか数週間前に、気候問題を自らの第一の政策的課題に選んだことは注目される。彼女は、危機の規模が、左翼労働者階級のアジェンダを復活させるあらゆる要素を含んでいることを理解していた。すなわち企業の権力との対決、富裕層の富の再分配、雇用保障に基礎をおく大規模な公共投資である。

座り込みの後、オカシオ＝コルテスの事務所は、ニューコンセンサスなど左派シンクタンクとともに、グリーンニューディールの詳細を詰めていく。公式の発表は2019年2月、オカシオ＝コルテスとマサチューセッツ州選出のエド・マーキー上院議員〔民主党〕の共同で行われた。残念ながら、この発表は大失敗だった。オカシオ＝コルテスの事務所はFAQ（よくある質問）文書をメディアに公開した。同文書は（彼女を当時補佐していたサイカット・チャクラバルティが執筆したとみられる）ひどくいい加減だけでなく、「ガスを排出する牛と飛行機を完全に除去する²⁸」ための長期的目標を記載するなど、環境保護論者の共感を得られないものだった。

当然、FAQ文書は直ちにFOXニュースに取り上げられ、GNDはエリート慈善家が労働者階級からものを奪い取るために考案したリベラルな緊縮策として描かれた。ユタ州選出のロブ・ビショップ下院議員（共和党）は記者会見を開き、GNDは「（彼の）人生を支配」し、ハンバーガーを食べる権利を奪おうとしていると批判し、こう述べた。「もしこんなものがまかり通れば、これ（ハンバーガー）は非合法化されるだろう」。この会見は、「人々のハンバーガーの消費量は減るかもしれない」というオカシオ＝コルテスのコメントに直接反応したものだ。こうした発言が本当にあったことは疑いないが、左派の環境保護論者のメッセージをしっかりとものにし、物質的利益を強調することがいかに難しいかを示している。私たち全員が何を諦めなければという類

のよくある説教をすれば、そのまま右派の術中にはまってしまう。

2019年後半、バーニー・サンダースは、彼独自のGND政策を発表した²⁹。危機の規模に見合う初めての大統領気候プランとして、多くの科学者は直ちに歓迎した³⁰。対照的に、サンダースの進歩派ライバルであるエリザベス・ウォーレンのプランは、軍を環境に優しいものにするを公約していた。専門家の多くは16兆ドルというサンダースのプランの費用に注目したが、その最も急進的かつ特徴的な側面は、公有電力を拡大する提案だった。サンダースは、環境に配慮したテネシー川流域開発公社（TVA）に関する人民政策プロジェクトの提案にならい、「エネルギー省の監督下にある4つの既存の『電力マーケティング部』に資金を投入する計画³¹」に加え、TVAの拡大を提案した。「イン・ジーズ・タイムズ」が掲載した記事では、「バーニー・サンダース、電力生産手段の接管を呼びかけ³²」という見出しが掲げられた。

サンダースの計画は例外的だった。公共電力を求める活動家の大半が電力の地域的制御や公営化を重視しているのとは異なり、公的な管理と計画実現のために、電力産業の大規模な全国的再構築を求めたからである。これはまさに私たちが必要とするアプローチである。なぜなら、個々の公益事業体を一度に一つのグループに「公営化」することは現実的でないからである。第三の道を支持するエネルギー専門家のジョシュア・フリードは、「サンダースの提案がやろうとしていることは、既存の電力会社がとても太刀打ちできないような、360キロのゴリラのように巨大な連邦政府所有の電力会社を誕生させることだ³³」と述べた。投資家の利益のために化石燃料を燃やし続けているのが、まさに同じく既存の電力会社であるとするれば、そのことこそ問題ではないのか。しかし、他の民主党の候補者らは、このことを声高に訴え

ようとはしなかった。

私たちが知っている通り、サンライズなど大規模な気候運動は、サンダースのキャンペーンを支持したがそれは失敗した。この敗北は、2018～20年にかけて大きく勢いづいたグリーンニューディールのプロジェクト全体に避けがたい影響を及ぼした。3つの批判的評価を紹介しよう。第一に、GNDは労働者階級のプログラムという主張性で、環境をめぐる政治に突破口を開いた³⁴。しかし私たちは、労働組合主義者のアンドリュー・マレーが的確に表現し、レオ・パニッチと共著者らが繰り返し指摘する相違——「階級中心の」政治と「階級に根ざした³⁵」政治との相違——に留意すべきだ。アントン・イエガーが「左翼ポピュリズム」と呼ぶ最近の左翼の復活は、明らかに労働者階級の「ための」政治であって、労働者階級の「の」それではない³⁶。これはGNDにそのままあてはまる。それは優れた政策的枠組みではあるが、今なお研究者、シンクタンク、NGOの専門家らによって策定されている。すなわち、労働者階級のための知的職業階級による政治である。おそらくGNDの組織化を支えた情熱の大半は、野心的な知的専門家（サンライズ運動、ゼロアワー、気候ストライキに参加した高校生や大学生たち）によるものだった。サンライズ運動は若い活動家集団を誇りとし、戦闘的な言辞を用いるが、それ自体が環境NGOの集合体から生まれた。運動の発端の一つに、2017年にシエラクラブ財団から提供された5万ドルの補助金と事務所が含まれる³⁷。サンライズ運動はまた、2020年の一連の選挙で230万ドルを集めた政治行動委員会（PAC：大規模政治献金の受皿）を運営している³⁸。

GNDを支える知的職業階級は、この階級に特有な活動家的言い回しを大量にプログラムに潜り込ませた。サンダースと人民政策プロジェクトは全国的な公共電力計画を推進したが、活動家らはブルックリンの小規模太陽光発電協同組合のよう

に、よりローカルな、「自治体が所有し、自治体が責任を負う」電力ビジョンを志向していた³⁹。こうしたビジョンは、スルニチェクとウィリアムズという「大衆政治」（社会変革という大きなビジョンではなく、小規模かつローカルな草の根に重点をおく）の罫に落ち込んでいるばかりでなく、明らかに気候危機の規模に見合っていない。気候危機は、ブルックリンの協同組合一つで解決されるものではない⁴⁰。

第二に、2017～20年の間に行われた組織化の大半は、左翼による国家権力の獲得（とりわけ行政レベルでの）という陶酔的な見通しにもとづいていた。敗北以前に、パニッチと共著者らは、コービンとサンダースの運動について「こうしたことは、少なくとも3世代にわたって起こらなかった」と、興奮気味に述べていた⁴¹。彼らは「社会主義者主導の政権」が何に直面するかについて推測し、左翼の大半は未だ「国家機関の改革という課題に向けた適切な準備ができていない」と示唆していた⁴²。同様に、マイク・マッカーシーは、「ジャコビン」の記事の中で、「我々の最初の100日間は悪夢になるかもしれない」と警告した⁴³。今やその悪夢は、まさに厳しい選挙の現実となって現れた。しかし、GNDプログラム全体は、国家を通じて実現される必要があった。これは非常に魅力的だ。なぜなら、クリスチャン・パレンティとアンドレアス・マルムが正しく述べているように、国家による強制力と財政力を抜きに、こうした大規模な改革を想像することは困難だからだ⁴⁴。結局、本来のニューディール（その大部分はエネルギーインフラへの巨額の新規投資から成る）を実現するのは、国家であった。

第三に、変革の理論が後ろ向きだった。サンダースは、自分が大統領になれば、労働者階級という眠れる巨人を揺り起こし、ウォール・ストリートや医療保険会社、化石燃料産業に対抗するために、選挙運動を超えた大衆運動を構築すると

公約した。「組織化のリーダー」が、自らの公約を自分ひとりで実行することはできないということを理解していたのは特徴的だった⁴⁵。おそらくサンダース自身は、大半の労働者階級の組織化を達成するよりも前に国家権力を獲得することは、本来のあり方ではないと考えていたのだろう。過去に幻滅を味わった労働者階級の有権者は、私たちが望んだように、勝利に必要なだけの規模で予備選挙に参加することはなかった。結果は真逆で、サンダースを脅威ととらえた偏狭なリベラル派と、マット・カーブが「ハリバートン（＝エネルギー大企業）の民主党員」と呼ぶ層で投票率の急騰をもたらした⁴⁶。既存の労働者階級の大半は、無関心な冷笑主義や、故マーク・フィッシャーの言うところの「反射的不能」に今もとらわれている。フィッシャーは述べている。「（人々は）事態が良くないことを知っているが、それについて何もできないということも知っている」⁴⁷

労働者階級の政治は（社会主義者主導の政権はもちろん）何も無いところから魔法のように生まれるわけではない。国家権力をめぐって張り合うことを期待するよりも前に、私たちはまず、有能な労働者階級の組織（たとえば強力な組合、メディア、その他の基盤的組織）を構築する必要があるだろう。ジェーン・マカリビーが断言する通り、権力構築に至る近道は今も存在していない⁴⁸。GNDとサンダースの運動は、つねに近道を示していた。気候変動に関して私たちが直面している厳しいスケジュールを考えれば、それらは追求する価値のある近道であった。



「連携の局面」 2020年4月～12月

2020年3月、バーニーの選挙運動は、数週間のうち最も有力候補から敗北必至の状況に変わり、

続いてコロナがやってきた⁴⁹。GNDの活動家グループは、自分たちが望む候補の周辺に運動を組織するやり方から、外から押し付けられた候補に「ハッパをかける」方法へと戦略を修正した。4月、民主党内の新自由主義者、大規模な環境保護組織、サンライズ、その他のGND指導者らの連合体が「クライメット・パワー2020」として発表された⁵⁰。5月、データ・フォー・プログレスのスタッフであるジュリアン・ブレイブ・ノイズキャットは、この運動は民主党員と連携する用意があるとし、「我々は党内における論争と対立の段階から…連携の段階へ移行する」と述べた⁵¹。戦略的にみれば、こうした連携はトランプを倒すために必要だったともいえるだろうが、実際には、闘争から融和への醜い転向だった。

最も注目すべき共同は、気候変動に関するタスクフォース（民主党内のバイデン派とサンダース派の統一をめざす6つのタスクフォースのうちのひとつ）であった。このタスクフォースには、オカシオ＝コルテスやサンライズの共同創設者であるバルシニ・プラカシュのほか、ジョン・ケリーのような支配層の人間、ペンシルバニア州選出のコナー・ラム下院議員など民主党保守派も含まれていた。交渉の結果、7月にバイデンの気候プランが発表されたが、歴史に残る野心的目標を掲げたことで歓迎された。バイデンのプランは、2兆ドルを費やし、2035年までに電力セクターを完全に脱炭素化する目標を目玉にしていた。このプランは、バイデンによるGNDを認めたことを示すものと思われた。しかし2ヵ月後、バイデンと彼が副大統領に指名したカマラ・ハリスの双方とも、討論会でこれを否認した。

バイデンが大統領選に勝利して以来、サンライズその他のGND支持者らは、バイデンによる閣僚の任命に鋭い注意を向けてきた。バイデンは気候問題に取り組み閣僚レベルのポストをふたつ新設し、すべての政府機関の活動の中心に気候問題

を位置づけることを望んでいる。ニューメキシコ州選出のデブ・ハーランド下院議員（先住民出身の女性で、GNDとメディケア・フォー・オール（の支持者）の内務長官への任命は、おそらくこの戦線における最も重要な勝利だろう。しかし全体としては、ニューヨーク・タイムズが報じている通り、「バイデン氏は中道・支配層の政治家であることに変わりはない。そして彼は、中道・支配層の政府を作り上げつつある」⁵²。オバマ政権の閣僚らがシティグループ抜擢の右派政権を代表していたとすれば、バイデンは中道右派政権への移行を約束している。かつては戦闘的だったGND運動も、バイデンとの正面对決を避け、彼を左へ「押す」よう振り付けされた集団に変わった。あるジャーナリストが11月下旬の集会で報じたように、「彼らの姿勢は、2年前よりも対決色を薄めている。」⁵³

評価されるのは、GND運動が気候政策において何が可能かという「ゴールポスト」を明らかに動かしたことである。2008年から2016年にかけて、主要な政策論議は新自由主義的な市場スキーム（炭素税かキャップ・アンド・トレードか）をめぐる行われた。バイデンのプランがカーボンプライシングに一切言及せず、公共投資と「グッド・ユニオン・ジョブ」が中心であることは非常に印象的である。しかし、急進的なGND活動家に「テーブルの席」を与えるだけでは、彼らに自分たちのアジェンダを実行する力を保証することには決してならない。事実、バイデンの2兆ドルの気候プランは、オバマのキャップ・アンド・トレード法案と同様、議会を通過しそうにない。民主党のゴールポストは、何が実行可能かではなく、何が提案可能かということを変えただけのように思える。

バイデンは、スコチポルの言う「協調組合主義的交渉」（影響を受ける産業を含め、すべての利害関係者をテーブルに着けるといふ）に対するオ

バマの公約を再現する構えらしい。ジェーン・マカリビーが注意喚起している通り、これは「権力へのアプローチを混乱させる」⁵⁴。キャップ・アード・トレードやアフォーダブル・ケア・アクト（通称：オバマケア）のような、業界寄りの中途半端な方策を生み出すのは、この種の交渉である。前連邦準備制度理事会議長で財務長官に新任されたジャネット・イエレンでさえ（進歩派は概ねこの人選を歓迎した）気候リーダーシップ評議会の創立メンバーである。同評議会は、気候危機を解決する実際のアプローチとして、カーボンプライシングに肩入れしている大手石油・ガス企業との協力組織である。つい最近、バイデンが「気候特使」に任命したジョン・ケリーは、石油企業について次のように述べた。「私が彼らに接触するのは、彼らの話を聞きたいからであり…私は彼らの要求が何であるかに耳を傾けている」⁵⁵

主要な問題は、GND 運動が、その核心においては、今なお学者、NGO、シンクタンク等、知的職業階級の活動家ネットワークに基礎をおいていることである。気候協同タスクフォースから出てきた、バイデンのプランの主な要求の一つを取り上げてみよう。同プランに支出される2兆ドルのうち40%は、いわゆる最前線コミュニティに割り当てられることになっている。最前線コミュニティとは、気候災害のリスクが高い自治体（たとえば沿岸部の自治体）や、化石燃料システムがもたらすリスクに直接さらされている人々（たとえば〔メキシコ〕湾岸部の化学製品製造に起因する「がん街道」沿いの黒人居住地域）のことである。サンライズのプラカシュは、これを GND 運動にとっての「巨大な」勝利と呼んだが、それは同タスクフォースの「進歩」派に対する主要な譲歩の一つと見なされた⁵⁶。

もちろん、気候に関するいかなる行動も、気候リスクの影響を最も直接的に受ける人々に焦点を当てるべきである。しかしこれは、これらのコ

ミュニティに対する真に実質的な公約というより、GND 活動家の中核的な道徳意識に対する譲歩である⁵⁷。実際に、正義や最前線コミュニティ、最も弱い立場の人々を中心に置くといった言葉遣い（私が「生活環境保護主義」と呼ぶもの）は、こうした活動家組織に対する倫理的なイヌハッカ（猫が好む香りがするシソ科植物のようなもの）だ。助成金申請書や研究職の間でこうした言葉が盛んに使われる一方、弱い立場におかれた貧困コミュニティは、極端な環境上のリスクという不当な扱いに直面し続けている。GND 運動は、今なお広範囲にわたる連合（すなわち、生活を脅かす資本主義的エネルギー企業に対峙する力）を欠いている。さらに言えば、支出の40%を最前線コミュニティに割り当てる計画の全体が、実地調査の費用となる可能性もある。誰が「最前線」と認められるのか、誰が特定のコミュニティを代表するのか。バイデンの計画は「『気候および経済的公正審査ツール』が、こうした不利益な立場におかれたコミュニティの特定を援助する」よう呼びかけている⁵⁸。このツールで十分に「不利益な立場にある」とみなされないコミュニティは、それを公正なプロセスだと理解するだろうか。

活動家の中で最も懸念されるのは、多くの人々の間に、GND 政策は他人事という意識が高まることだ。米国人の57%が、気候変動は自分たち個人に影響を与えないと考えているもとでは、多くの人が自らを「最前線コミュニティ」の一部とみなすとは考えにくい⁵⁹。この種の政策は、大多数の人々が苦しい生活を強いられている一方で、ターゲットを絞って給付金を支給することに対する集団的不満をかき立てる恐れがある。私たちは、気候変動の影響を最も受ける人々に対応する措置を講じられるような政治権力を欲している。しかし勝利するためには、可能な限り広範な層にアピールするプログラムが必要だ。GND の活動家らは、彼らがペロシの事務所に大々的に掲げた

ポスターの基本スローガン——「みんなに緑の雇用を」——に立ち返るべきであるように思われる。



グリーンニューディールの 10年

GND 運動について、現在私たちは GND の10年目に入りつつあると考えている。しかし私たちは、それを実行する権力には近づいていない。私たちにできるのだろうか。私は、この種の権力の構築につながる3つの戦略的手段を列挙して締めくくりたいと思う。

第一に、左翼の国家権力をめざす試みはほとんど挫折したが、私たちは国を捨てることはできない。民主党が上下両院を握っている今、形勢はやや私たちに有利に働かだろう。進歩的左派の多くは、バイデン政権が果たすことのできる明確な行政レベルの政策を提示している。たとえばニューコンセンサスは、気候危機を解決するため、連邦準備銀行が実際の地域投資プロジェクトに流動資産を投入することを提案している⁶⁰。私たちは、この種の政策をできる限り推し進めるべきだ。さらに社会主義者は、州と地方で勝利し、大きな成功を収めている。これらの幹部が、壊滅的な緊縮予算に抗して、いかに労働者階級のアジェンダをやり遂げるかは、今後1年間の決定的なたたかいになるだろう。

2020年における左翼の失敗が、大多数の人々が、私たちが訴える政策をまだ信用していないという事実に起因することを、私たちは明確におかねばならない。大半の人々が、国家に期待することについて悲観的であり続けているのも無理はない。新自由主義の残骸から左翼が権力を勝ち取ることは、まさに大衆という概念を回復することから始めなければならない。気候運動について

いえば、私たちのキャンペーンのリトマス試験として、次のことが問われる。その政策は、公益の名目で物質的利益をもたらすことで脱炭素化するのかという点だ。実際に結果を出すことによつてのみ、私たちは社会変革に必要な大衆政治を復活させ始めることができる。気候政策コミュニティの大半は不安定な規制策（「クリーンエネルギー基準」と呼ばれる代物）に奇妙にも取りつかれているが、この種の技術的解決策は、私たちが必要とする大衆的な熱意を決して生み出すことはないだろう。実際、右派はこの政策を、一般国民が支払う電気代を引き上げるためのリベラルなスキームとして容易に用いるだろう⁶¹。

第二に、歴史が示す通り、大規模な政治変革は、議会外における抗議行動を通じた場合にのみ生じる⁶²。このことは、最近では2018年にウエストバージニア州で起きた教員ストライキで証明された。教員らは、進歩的な候補者を立てて法律を提案することで、自分たちが望む改革を試みることもできただろう。しかし彼らは、大衆の支持を組織し、学校を閉鎖し、約2週間で要求を勝ち取った。急進的な気候運動（とりわけサンライズ）は、今もほぼ完全に選挙運動の枠にとどまっている。彼らはバイデンその他の候補への投票を得るために巨大なボランティアの力を結集しているが、バイデンと民主党が予想どおり期待を裏切った場合、このエネルギーはどうなるのか。

環境保護運動は、戦略的な抗議行動について、もっとよく考えなければならない。ウエストバージニアの教員ストのケースが示しているように、大衆を味方につけない限り、抗議行動は容易に非難される。気候変動に関する直接行動的な抗議運動は、ターゲットとなる産業の労働者と労働組合を長らく疎外してきた。よく知られていることだが、エクステンション・レベリオン〔XR〕は、ロンドンの労働者階級が利用する通勤電車を止めたことで、大衆の反発と嘲笑を買った。気候

運動は礼儀正しく、明らかに非妨害的な抗議に従事し続けている（たとえば2014年の人民気候行進）。若者の運動がストライキ用語を復活させているのをみると励まされるが、2019年の世界気候ストライキは純粋に自発的なものだった。活動家が発したストライキの呼びかけは、それが牙を欠くものであることをあけすけに認め、こう述べていた。「我々は、このストライキが…事の成り行きを変えないであろうことをよく認識している」⁶³

社会主義者は、支配層が急進的な要求に応えざるを得ないようにするだけの戦略的能力を有する抗議行動の一つの型が存在することを知っている。ジェーン・マカリビーが主張するように、「危機を生み出すには、労働者が100%職場を放棄すること以上の方法はない」⁶⁴。マサチューセッツ教員組合は2019年夏、GNDをめざす全国的な教員ストライキを呼びかけた⁶⁵。こうしたストの呼びかけは、職場でストを組織することとはまったく異なるとはいえ、これは私たちが実践を検討すべき行動である。

第三に、GND運動が、その知的職業階級の活動家空間を超えて前進しようとするれば、直接的に労働者階級コミュニティの中で（まずは労働組合運動において）組織と意識を強化し始める必要があるだろう。どれだけ多くの組合がGND＝経済的公正および不平等とのたたかいにもとづくプラットフォームに反対の態度をとったかを考えると、大きな不安に駆られる⁶⁶。基本的な問題の一つは、GNDの立案者らが、中核となる理念や政策をつくる際、労働組合に相談しなかったことだ。組合に基礎をおく気候運動は、労働運動がずっと理解してきたことを認識する必要がある。経済の特定の部門における組織化は戦略上重要だ。ジェーン・マカリビーは、1930年代にCIO〔米産業別労働組合会議〕が鉄鋼および石炭産業をいかに重視したかについて詳述しているが、現代重視すべき産業として医療、教育、物流システ

ムを挙げている⁶⁷。気候についていえば、100%脱炭素化を実現するいかなる合理的な道も、電力部門を通過することは自明である。こうした「オール電化」戦略は、電気を浄化し、住宅暖房、交通機関、および産業加熱システムの電化を意味する。しかし、経済全体において、電力セクターはすでに最も労働組合の組織化が進んだ部門の一つであることを指摘するGND活動家はほとんどいない。実際に、米国の発電、通信、流通セクターの組合組織率は26.3%である⁶⁸。これらの労働者を代表するのは、国際電気労働者同盟（IBEW）や米公益事業労働組合（UWUA）などの組合である。GND運動は、問題の中心に位置するまさにそのセクターを改革するため、これらの組合を味方につけるよう努力すべきだろう。IBEWのある組合員は、すでにGNDについて一般組合員向けの戦略を提案している⁶⁹。

他方、再生エネルギー産業は、とくに太陽光や風力の分野でひどく組織率が低く（太陽光発電技術分野の組織率は4%、集約型太陽光・風力発電では6%にすぎない）民間資本がほぼ完全に利益目的で運営している⁷⁰。GND運動は電力労組と関係を結ぶ必要がある。そして、エネルギー転換は戦略的な労働協約と組織労働者によって長期的にコントロールされない限り、一種の「緑の資本主義」によって破壊されるということを主張しなければならない。



結論

「今現在の傾向としては、気候非常事態の深刻さを理由に『私たちに残された時間は5年か10年しかない』と言えるかもしれない。この種のスローガンは、人々に事態の深刻さを理解させるように作られている。しかし、政治戦略としては行

き詰まっている。たとえ気候をめぐる状況がどんなに絶望的であろうとも、私たちはこのような期間で考えるわけにはいかない。私たちは、10年、15年、あるいは20年といった期間で考えることができなければならない。根本的な階級的・組織的再建がなされる必要がある。それには時間がかかる」——レオ・パニッチ、2020年3月⁷⁾

なんと悲しいことに、レオ・パニッチは、私がこの記事を執筆している間に他界した。上記の主張は彼の著作に特有の、冷静かつ鋭敏な指摘である。私たちが気候危機に直面し、近道を必要としたところで、階級闘争がそれに合わせてくれるわけではない。GNDをめぐるエネルギーの大半は、一種の呪術的思考にもとづいている。すなわち、科学的な緊急性を強調することで、労働者階級を組織化する以前にも、大規模な社会変革が可能だとする思考である。こうした願望が偽りであることを理解するには、本家本元のニューディールをみればよい。1933年、フランクリン・ルーズベルトは、筋金入りの資本家階級の支持者として大統領に就任した。社会主義オルガナイザーとCIOの戦闘的組合活動家が全国的ストライキの波を通じて「危機を創出した」のち、1936年までに、ルーズベルトは資本の憎悪を歓迎し、米国史上最も変革的な労働者階級のアジェンダを承認した。2021年、協調組合主義的な密室交渉を通じてジョー・バイデンを左へと効果的に押しやることができると考えることで、真の危機は前進するよりむしろ後退しつつある。総じていえば、バイデンと国家を動かすことができ、また動かすであろう唯一のものは、労働者階級の組織と行動である。この困難な仕事を遂行するうえで、私たちに近道はない。

1 2017年6月29日のホワイトハウスにおける「解放された米国エネルギー計画イベント」での発言

- 2 エド・ヤング著、「科学への行進に参加するとき、何を求めているのか?」2017年3月7日付 Atlantic 誌
- 3 「バラク・オバマのセントポールでの演説」、2008年6月3日、ニューヨークタイムス
- 4 石油生産は2009年から16年にかけて76%増加したが、16年から19年までは38%しか増加していない。米国エネルギー情報局 (EIA)、「米国の原油生産量」より
- 5 タイラー・ストーン、「オバマ大統領：米国は突如最大の石油生産国に。それは私の時代に」、リアル・クリア・ポリティクス紙、2018年11月28日
- 6 マイルズ・マコーミック、「米国の石油企業が削減目標を掲げる欧州に続こうとしている」、フィナンシャルタイムズ、2020年12月6日
- 7 ゼイク・ハウスファーザー、「地球温暖化で1.5度と2度上昇を超えるのはいつか」、カーボン・ブリーフ、2020年12月4日
- 8 ヘンリー・ファウンテン、「それほど凍っていない北極へのシフトは起こっていると科学者が警告」ニューヨークタイムス、2020年12月8日
- 9 ケイト・アロノフ、アリッサ・ベティストーニ、ダニエル・アルダナ・コーエン、テア・リオフランコス著「A Place to Win」(ベルソ社、2016年発行) 16ページ
- 10 ヴァン・ジョーンズ著「Working Together for Green New Deal」、ネイション誌、2008年10月28日号
- 11 デービッド・ダイアン、「最も重大なウィキリークスによる革命はヒラリー・クリントン問題ではない」、ニューリパブリック誌、2016年10月14日号
- 12 環境保護局「データハイライト：米国の温室効果ガスの排出と落ち込み：1990-2018」
- 13 シーダ・スコチボル、「問題を特定する：過激主義者にそのように対抗し、地球温暖化への米国人をどう巻き込むか」、ハーバード大学出版局、2013年1月14日発行、121ページ
- 14 オシャ・グレイ・デヴィッドソン、「キャップアンドタックス8 (とその米国のエネルギー政策) の意味」、フォーブス、2010年11月4日
- 15 ブラッド・ジョンソン、「カトリーナ神話から考える、油田掘削機から今日油は流出しない」、シンク・プログレス誌、2010年4月28日
- 16 カトリーナ・リン、「RES法を今議会では通過させず、来年に先送りする見込み」、ニューヨークタイムス、2010年10月18日
- 17 デービッド・キプレット、ティモンズ・ロバーツ、ミザン・R・カーン、「Poser in Warming World」、マサチューセッツ工科大学出版局、2015年、65ページ
- 18 同上、65ページ
- 19 エネルギー情報局、「米国の原油生産」
- 20 ケビン・A・ヤング、タルン・パネルジー、マイケル・シュワルツ著、「Levers of Power: How the 1%

- Rules and What the 99% Can Do About it]、Verso 社刊、2020年、102ページ
- 21 同上、103ページ
 - 22 同上、124ページ
 - 23 リズ・ハンプトン、「米国の石油メジャーが、戦いに備えて民主党により多くの金を流す」ロイター、2020年10月16日
 - 24 スレシュ・ナイドゥ、「グローバルな炭素税が必要だ」、ジャコビン誌、2014年9月21日、ジェームス・K・ボイス、マーク・ポウル、「彼らに支払わせろ」、同誌、2016年12月5日
 - 25 ケイト・アロノフ、「地球に第三の道はない」、ジャコビン誌、2017年5月10日
 - 26 アレクサンダー・C・カウフマン「気候変動のメディアアーフォーオールの驚くべき起源」ハフィントンポスト、2018年6月27日
 - 27 IPCC「政府に承認を受けた1.5度の地球温暖化に関するIPCC特別報告」2018年10月8日
 - 28 「GNDのFAQ文書」に関し、不思議なことに最近のインタビューでチャクラバルティは「自分を左派や進歩派だと思ったことはない」と述べた。ザック・スタントン「左派の中の新しい成熟した政策戦略の内実」ポリティコ誌、2020年12月10日
 - 29 「GNDの課題」ビジネスインサイダー誌に掲載
 - 30 ウマイル・イルファン「バーニー・サンダースのアグレッシブな気候政策で知るべき5つのこと」VOX誌、2020年2月19日
 - 31 マット・ブルエニグ「グリーンTVAで気候変動とたたかう」人民政策プロジェクト、2019年1月23日：ギャバン・ベイド「パワー・トゥー・ザ・ピープル：バーニーが発電事業の連邦管理を求める」ポリティコ誌、2019年8月22日
 - 32 ジョアンナ・ボズワ「バーニー・サンダース、電力生産手段の接収を呼びかけ」In These Times、2019年8月22日
 - 33 ベイド、「パワー・トゥー・ザ・ピープル」ポリティコ誌
 - 34 マット・T・フーパー「労働者階級のためのエコ政治学」キャタリスト3誌、2019年1号、7-45ページ
 - 35 レオ・パニッチ、サム・ギンディン、ステファン・マハー「The Socialist Challenge Today: Syriza, Corbyn, Sanders」ハイマーケット出版、2020年、11ページ
 - 36 注35の私の文章で労働者階級のためのエコ政治学で定義づけている。アントン・ジャガー「左派ポピュリズムにかけ、そして負けた」ジャコビン誌35号（2019年秋号）124-34ページ
 - 37 マーク・K・マシューズ、ニック・ボウリン、ベンジャミン・フラック「サンライズ運動の内幕（それは偶然ではない）」E&Eニュース、2018年12月3日
 - 38 サンライズ政治行動委員会プロフィール、Opensecrets.org
 - 39 ジョアンナ・ボズワ、マーク・ポール「公益事業の公共所有は気候変動対策の一部になるか？」The Trouble、2019年9月16日、アシュリー・ドーンソン「グリーンな都市の公共エネルギー」ジャコビン誌、2020年10月25日
 - 40 ニック・スリセク、アレックス・ウィリアムズ「Inventing the Future: Postcapitalism and a World Without Work」ベルソ出版、2015年、9ページ
 - 41 パニッチ前掲書、2ページ
 - 42 パニッチ前掲書、99、12ページ
 - 43 マイケル・A・マカーシー「最初の100日は悪夢になりうる」ジャコビン36号、2020年冬号、68から80ページ
 - 44 クリスチャン・パレンティ「国家が問題になる時」ジャコビン誌、2015年10月30日、アンドレアス・マルム著「Corona, Climate and Chronic Emergency」ベルソ出版、2020年
 - 45 ミーガン・デー「バーニー・サンダースはみんなにたたかいに参加するよう求めている」ジャコビン誌、2019年3月12日
 - 46 マット・カーブ「バーニー・サンダースの5年間のたたかい」ジャコビン38号、2020年夏号、57-74ページ
 - 47 マーク・フィッシャー「Capitalist Realism: Is there No Alternative?」、英国、ゼロブックス社、2009年
 - 48 ジェーン・マカリビー「No Shortcuts: Organizing for Power in New Gilded Age」、オックスフォード大学出版局、2016年
 - 49 GND政策の考え方全体は1930年代の世界大恐慌に類似した危機となっている。パンデミックの衝撃によって、多くのGND推進者が大規模な「グリーン経済刺激策」を2020年4月ごろに準備していた。「経済再建のためのグリーン経済刺激策」（2020年3月23日）参照
 - 50 アダム・エイトン、「民主党が気候問題での分断の橋渡し。GNDに焦点をあてて」E&Eニュース、2020年5月21日
 - 51 同エイトン、「民主党が気候問題での分断の橋渡し、GNDに焦点をあてて」E&Eニュース
 - 52 リサ・ラーナー「バイデン政権チームが教えてくれること」ニューヨークタイムズ、2020年12月19日
 - 53 アダム・エイトン「気候問題に取り組む：進歩派はバイデンにパンチを浴びせる」E&Eニュース、2020年11月20日
 - 54 ジェーン・マカリビー「なぜ組合は地盤の拡大にコミットしなければならないか」ネイション誌、2021年1月4日
 - 55 「気候問題特使として、ケリー特使は謙遜とともに大胆さを模索」NPRラジオ、2020年12月10日

- 56 「サンライズ運動：民主党全国委員会は化石燃料補助金廃止の公約を拒否したのだから、民主党は気候危機に対応しなければならない」 デモクラシー・ナウ、2020年8月10日
- 57 フーバー、前述「エコ政治学」
- 58 「環境正義と公正な経済の機会をバイデン政権は確保する」 バイデン氏の Web サイトより
- 59 「イェール気候オプションマップ2020」 イェール大学気候変動プログラム、2020年9月2日
- 60 ニューコンセンサス「覚え書：上院で多数を確保できても、できなくてもより良いコロナ後の回復を目指す」 2020年11月7日
- 61 デービッド・ロバーツ「ついに左派が団結できる気候政策のプラットフォームが」 Vox 誌、2020年7月9日
- 62 ヤング他、前述「Levels of Power」
- 63 ナオミ・クライン他「私たちは発展している：気候危機を止めるために行動を」 ガーディアン紙、2019年5月24日
- 64 エリック・ブラン、ジェーン・マカリビー「勝利のための戦略」 ジャコピン誌、2018年4月18日
- 65 「マサチューセッツ教員組合が GND のためにスト呼びかけ」 持続可能性のための労働者ネットワーク
- 66 ウマイル・イルファン「民主党、労働組合の基盤を作るための GND」 Vox 誌、2019年6月19日
- 67 マカリビー前掲書「No Shortcuts」

- 68 バリー・T・ヒルク、デービッド・A・マクファーソン「現代の人口統計から見る労働組合組合員と組織率データベース」 unionstats のサイトより
- 69 ライアン・ポロック「建設産業におけるエコ社会主義者の現場戦略」 The Trouble 誌、2019年11月28日
- 70 各州エネルギー担当、将来のエネルギー担当者全国協会、2020年米国エネルギー環境報告書、2019年11月28日
- 71 ロナン・バーテンショーによるレオ・パニッチ氏インタビュー、「左派の10年」 トリビューン、2020年3月7日

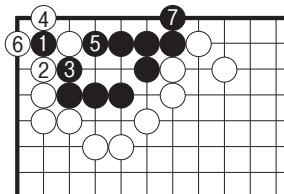
マット・T・フーバー 米ニューヨーク州のシラキュース大学地理環境学部教授。研究上の関心はエネルギー、資本主義と気候変動をめぐる政治の関係分析。最初の著作は「Lifeblood: Oil, Freedom and the Forces of Capital」（ミネソタ州立大学出版局、2013年）では、米国における都市近郊の民営化主義と新自由主義政治の力関係における石油の役割を分析。新著の「Climate Change as Class War: Building Socialism on Warming Climate」は Verso 出版から2022年5月発行予定。フーバー教授はジャコピン誌に定期的に寄稿し、他にも The Trouble、The American Prospect や Toxic News などにも寄稿している。

詰碁・詰将棋の解答と解説

詰碁の解答と解説

解答 黒先、黒生。

解説 黒1が急所の一手で白2に黒3、5を利かして解決です。白2で3も黒2以下のシメツケで生。黒1で2は白1で黒失敗。



詰将棋の解答と解説

解答 ▲3三銀成△同玉▲3二金△2三玉▲2二金△1三玉▲2三馬まで七手詰。

解説 初手▲4二金は△5三玉▲5二馬に△6四玉で失敗です。正解は▲3三銀成で今度△5三玉は▲6三金があります。△3三同玉に▲3二金と追撃します。一見△2三玉で困るようですが▲2二金のスリ寄りが好手で玉の逃げ場所はもうありません。